

大学の授業で心理学の何をどう教えるか

浦上 昌則
(南山大学文学部)

近年、教員自身や学生による授業評価を通しての授業改善の必要性が頻繁に指摘されている。また心理学関係科目の受講希望学生は、他の授業に比べかなり多い。昨年度春、筆者はこのような状況の中に飛び込んだ。そこでまず考えなければならなかったことが、心理学の何をどう教えるかという点である。ここでは、現在実行している授業の一部を話題として提供させていただく。

授業名

テーマ科目：生命（人間の発達と環境）

（これは心理学の専門科目ではない。学際的な色合いを持つ、全学に対して開かれた科目である。）

現状認識

- ・学生の間関係を見る視野は狭い。
- ・学生間の人間関係についての情報交換は少ない。
- ・大学生は「育てる」という役割が増大し、顕在化しはじめる時期にある。

授業目標

発達に対する他者の存在の影響を考え、現在の自分の理解を深めたり、他者の発達に影響を与える存在としての自分を省みることを目標としている。すなわち心理学的キーワードとしては、発達のみならず、親子、家族、友人、恋人などの人間関係、人間関係スキル、自己理解、自己成長などをあてはめることができると考えている。なお学生には、“少しでも他者に優しくなるには、ということを考えてほしい”と言っている。

授業形態

まず受講生に、指定された対象との関係性についてのレポート提出を求める。そして授業では、提出されたレポートを読み聞かせるという形態で進行する。なお提出されたレポートの内容を、こちらで簡潔にまとめたものを毎週配付しており、そこに示された要点に対応するものを中心に紹介している。またレポートを紹介する時には、固有名詞等についてプライバシーを保護する必要があると判断したときを除いては、意図的な脚色はしない。毎回15程のレポートを紹介用として持っていき、時間的な問題から紹介できないものがでてくるのが通常である。

レポートの紹介以外に意図的に話すことは、学生が自覚していない視点についてである。例えば、「父」や「母」から見れば、あなたは子どもであることを認識しているか、「祖父母」は自分の両親の両親であることを認識しているか、「友人」はなぜ必要なのかなど、レポートを読んだり学生と接していく中で、かれらにとって身近すぎて自覚されていないと感じる点を積極的に問いかけることにしている。

授業計画

- 第1回：オリエンテーション、発達とは
- 第2回：遺伝 vs. 環境
- 第3回：母（小学校まで）
- 第4回：母（中学以降）
- 第5回：父（小学校まで）
- 第6回：父（中学以降）

第7回：きょうだい

第8回：祖父母

第9回：教師

第10回：友人（同性）

第11回：恋人

第12回：友人（異性）、まとめのレポート

（13回の場合は、教師を小学校までと中学以降に分ける）

コスト

授業日が水曜日であり、その時間の終りに次の週のテーマを示し、レポートを求める。レポートの提出締め切りは、同週の金曜日5時と設定している。つまり、週末から火曜日までの間にレポートに目を通し、授業で紹介するレポートを選出しなければならない。現在のところ140名程度が受講しており、これを半分に分割し各週で提出を求めているが、それでも全てのレポートに目を通すのに数時間を要する。他の授業に比べ、コストはかなり大きいといえる。

リスク

本授業は、一般的な学生の人間関係に焦点をあてている。そのため、それに当てはまらない学生にとっては、レポート等を書きにくい状況にあると考えられる。また、過去を振り返ることを嫌う学生もいるだろう。このあたりに危険性を感じることもあるが、本授業は選択科目でもあり、現在までのところ、これらに対する苦情は聞いていない。

授業成果

最終回に提出を求めたレポートから、いくつかの成果と考えられるものをまとめてみる。

- ・他の人のレポートを聞くことによって、幅広い物の見方・考え方を得ることができ、自分の反省すべき点、見習うべき点など明確になった。
- ・実際にドラマのような体験を聞くと、自分は親に、よい巡り合わせをしたなと感じ、また父との関係についてこのままで良いのだろうかと考えさせられました。
- ・毎回、特定の“対象”に向き合うことで、自分についてよく考える機会となった。
- ・自分では今まで一人で頑張ってきたように思いがちになってしまいますが、知らず知らずのうちにまわりの人から多くの助けを受けてきたことに改めて気付かされました。
- ・人間は、他人と接するとき、どれだけ相手のことを考慮に入れて、相手の心を読もうとするかが大切だと思う。その努力によって、人間関係はうまく築かれると思う。
- ・今まで心につまっていたことも、レポートに真実を書くことで、ある程度楽になった人が多くいると思います。
- ・普段は友達どうしても話さない、心の内面のようなものを得ることができたと思う。
- ・私は今まで、自分の中にいろいろな面があって、それを態度などで示してきました。ワンパターンな人間より多面性のある人間の方が魅力的だとも思っていました。確かに多くのものを持っている人間は魅力的だと思いますが、物ごとには秩序があるように、人間もそれをどう整理し、自分自身にしていくかが大切だということを、この授業を受けて、やっと分かりました。
- ・自分の今までの生活を客観的に見ることがあまりできないので、これまでの人付き合いは「楽しければ…」と容易に考えてしまっていたけれど、自分のまわりの一人ひとりが自分を形成するうえで、良い意味でも悪い意味でも大きな役割を果たすという考えが自分の中で出来上がったと思う。
- ・この授業をたまたま一緒にとった友人と、この授業を通して、人間関係について話すことができるようになったのがうれしかった。

全体的に見て、こちらの意図していたものについて考えていると判断される。その意味で、今までのところこの授業はうまく運営されていると思う。しかし、大いに不満な点が一つある。それは、「人に影響を受けて発達してきた自分」というものについては自覚が生まれてきているが、「人に影響を与える環境因としての自分」という存在の自分をなかなか理解してもらえない点である。これは学生の書く授業の感想から私が感じることであり、もしかするとそうではないのかもしれない。しかし、これから人を育てる役割を果たすようになるわれらには、人に影響を与える自分、人に見られる自分というものを自覚してほしいと願っている。この点が、今後の授業改善の方針となるだろう。